

令和元年8月10日
北海道地方放送教育研究協議会夏季特別研修会 in 苫小牧に参加して
厚沢部町立館小学校
佐々木 朗

道南情報教育ネットワークからの案内で、苫小牧の研修会に行ってきました。前半は、NHK の放送番組を使った授業のあり方、後半は、スクラッチの導入について、研修を深めてきました。

3本の研究発表がありました。その中で体育の「はりきり体育ノ介」という番組を使った実践について、報告します。

研究発表では逆上がりの指導にこの番組を使ったとの報告がありました。ビデオを使い、逆上がりができる人（プロの陸上の選手）とできない人（体育ノ介というロボット）の逆上がりの違いを分析します。どこが悪いのかを分析します。そして、体育ノ介のプログラムを修正します。すると見事体育ノ介は逆上がりができるようになります。



また、番組では、タブレットを使い、子どもたちの逆上がりの様子を撮影し、どこが悪いのかをその場で、自分の目で確かめてフォームを改善していく様子も出ていました。

今後学校にタブレットの導入も予定されていることから、どこにでも持ち運びできるタブレットの使い方の研究が求められると感じました。

午後からはスクラッチの研修を行いました。



私自身スクラッチの講習会を行って少しはわかっていたつもりですが、子どもたちの導入する場合、全く違う角度から入っていけることがわかりました。

講習では、「why?プログラミング」を使って、番組を見ながら、そして実習を行いました。番組の「壊れたさかなを直せ」という番組では、水族館の中の全く動かない魚をプログラムを入れて動かすというものでした。

今までは、初めからプログラムを書くことを想定していましたが、できてあるものに修正を加えて、オリジナリティーを出していくということも、子どもたちにとって導入しやすいと感じました。

プログラミング教育の導入は、小学校では来年度からとなっています。「難しく考えすぎずに」と思いながらも、プログラミング教育の意図するところを受け止め、どのように指導していくかを、教師は、持っていくことが大切だと思いました。来年の4月を迎える前、推進者の一人として、プログラミング教育の重要性を訴えていきたいと思いました。